

乳幼児医療費 ゼロ化に向けて



問

出産・育児についての、これまででもその都度、支援策等を議論し、町長自身も最重要政策としてこれまで鋭意取り組まれてきた。

近年の出産・育児に対する環境整備には、事情が複雑化しているが、独自の支援策を打ち出す自治体も増え、厳しい財政の中にも子どもへの思い、将来への期待感を感じる。
特に医療費に対する家計からのニーズは非常に大きく、その拡充についてどのように考えていくのか、町の見解を伺う。

町長

町や国の将来を担い、社会の宝である子どもを育てる家庭を地域社会が支えることは重要なことであり、乳幼児医療の助成事業もこうした理念のもとに行われる施策と考える。

就学前までの医療費の無料化は、町としては、単独

でも実施する方向で、予算編成の中で具体的な検討を進めていきたい。

雇用対策について

問

労使を取り巻く環境は年々厳しさが増し、雇用の確保は困難を極めていている。

特に季節労働者対策として8町で「十勝北西部通年雇用促進協議会」設立され、このほど士幌町でセミナーが開催された。また、地方企業の経営環境とは相反し本年10月より最低賃金も上昇し、ますます雇用環境が厳しくなった。

そこで、地元企業の動向を把握し、雇用支援を視野に入れた工事・物品等の発注に取り組み必要があると思うが、町の見解を伺う。

町長

工事の平準化については、北海道が発注する工事の一部で実施されてい

るが、本町が発注する工事については全体工事が減少している中、少ない工費をいかに効率よく発注施工するか検討し、その工事に最も適した時期に発注することから、冬期発注工事が少ない状況にある。

施工状況によっては、凍上などの影響から手直し工事が発生することも懸念され、工事の平準化が進まない要因と考えられるが、工事それぞれの状況を把握し平準化に向けた工事発注が可能か検討したい。

物品の発注についても、町内業者で対応できるものについては、町内業者育成の観点から、従前同様発注したい。

児童・生徒の 安全確保について

問

本年も場当たり的、通り魔的な事件が後を絶たず、不可解な動機での犯罪が増えているように感じる。特に子どもたちはそういった犯罪には無抵抗に近く、生命・身体を地域ぐるみで守る姿勢は重要と

考える。

そこで、子どもの通学時・就学時・課外活動時等の安全確保・不審者対策について、町の見解を伺う。

教育長

毎年、学校ごとに通学路の安全点検を行い通学路を指定し、必要に応じて交通安全指導員の配置の協議を行い、効率的な配置に努めている。交通安全指導員の配置により、交通安全防止に加え、大人の目があることによる、犯罪防止に対する一定の抑止力が働いているものと考える。

学校単位で教職員や子どもを対象に、防犯教室の開催をはじめ、集団下校の予行練習など体験を通じて危険予測能力や危険回避能力を身に付けるよう努めている。

退職校長会や地域の方々の協力で通学時の見守り活動、子ども110番の家

の設置、町内企業の協力で防犯パトロール車の巡回、不審者情報の速やかな伝達など、多くの視線を子ども達に注ぐことで犯罪の未然防止に取り組んでいる。

まくべつ教育の日を一つのきっかけに、地域の方々に学校に目を向けていただき、地域と学校のつながりを深め、子ども達への声かけなどを通し、子ども達の安全確保、見守りに協力を得るなど、犯罪を起こしにくい環境を整備することで、犯罪の抑止効果に繋がっていくと期待している。



街頭啓発の様子